

JA全農 WEEKLY

4-5面

平成30年度事業計画のあらまし

6-7面

JAグループ国産農畜産物商談会
産地と実需の懸け橋に



産地と実需者との懸け橋機能を発揮しているJAグループ国産農畜産物商談会(6、7面)



広島わけぎ産地日帰りバスツアーで収穫を体験する参加者(3面)



佐賀県の「さくらマラソン2018」でも好評だった焼き餅配布(3面)

- 2 理事長新年度のごあいさつ
- 3 ニュース&トピックス(米穀部、広島県本部)
- 4-5 特集：平成30年度事業計画
- 6-7 特集：国産農畜産物商談会(営業開発部・耕種総合対策部)
- 8 コミュニケーション(広報部、JAタウン)



Web版JA全農ウィークリーがスタートしました。

詳細は8面に

効率的な事業運営に向けて 新たな道筋へのレールを敷き、 組合員のための自己改革を 着実に実践

代表理事理事長

神出 元一



平成30年度の事業開始にあたり、一言「あいさつ」させていただきます。会員の皆さま、組合員の皆さまにおかれましては、本会事業につきましても格別のご支援とご協力を賜っておりますこと、重ねて厚く御礼申しあげます。

さて、昨年3月に、『農林水産業・地域の活力創造プラン』に係る本会の対応として、農業所得の増大に向けた生産資材・農産物販売事業分野でのJAグループとしての自己改革の方向性とその具体策（以下、「年次計画」という）を策定し、すみやかに実践に入りました。本年度は、30年産以降の米政策の転換、また卸売市場法の見直しの検討、TPPや日EU・EPAの批准に向けた動向などの国内農業を取り巻く情勢を

注視しつつ、3か年計画の最終年度として三つの重点事業施策の総仕上げに取り組みます。さらに、29年度に策定した『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案』で示した具体策、および「年次計画」について、随時補強・追加・見直しを行い、自己改革の着実な実践に取り組んでいるところとします。

30年度の事業計画は地区別総代会議を経て、3月27日の臨時総代会に付議し、承認いただきました。生産面では、肥料に加え農業機械・段ボール資材での共同購入の拡大やジェネリック農薬の開発、海外飼料原料の調達力強化などにより、生産コストの引き下げをすすめます。また、ICTなどの新技術の活用や、農業現場での農作業受委託

など労働力支援への対応を強化します。販売面では、地域生産振興による実需者ニーズを踏まえた業務用米や加工・業務用野菜の産地づくり、産地間リー出荷体制の構築を進めます。また、営業体制の拡充、品目を横断した営業、および実需者を横断した営業、および実需者・米卸業者への出資・業務提携などにより直接販売の拡大を進めます。輸出事業では、新たな海外拠点を核として、相手国のニーズを踏まえた販売戦略を強化します。また、地域社会づくりの支援、災害からの復旧・復興支援に取り組みます。

30年度、効率的な事業運営に向けて新たな道筋へのレールを敷き、組合員のための自己改革を着実に実践していくことをお約束して、年度初めの「あいさつ」とします。



さが桜マラソン2018で焼き餅を配布

佐賀県で国産もち米をPR

米穀部



ボランティアの地元高校生とともに焼き餅を配りPR



今回も好評だった焼き餅配布

全農はマラソン大会でランナーなどを対象に、もちがマラソンに適した食材であることのPR活動を継続的に実施しています。3月18日に開催された毎年恒例となった「さが桜マラソン2018」で、佐賀県農協と共催で砂糖じょうゆで味付けした焼き餅の試食配布と国産もち米に関するパネル展示を行いました。

「さが桜マラソン2018」は、天候に恵まれたこともあり全国から約1万人のランナーが集結しました。

全農ブースではボランティアで参加した地元の高校生とともに、「地元佐賀県産ヒヨクモチ使用の焼き餅をお配りしています」「マラソン後の糖質補給にはおもちがピッタリです」という呼び声のもと、走り終えたランナー向けに8000個

の焼き餅の試食配布を行い、午後3時までにすべて終了しました。

大会には男女とも子どもから大人まで幅広い参加者に加え、応援の家族・職場の同僚も多数訪れており、試食を通じてマラソンにおけるもちの相性訴求と国産もち米の絶好のPRの場となりました。

全農は今後もマラソン大会を中心としたイベントにおいて国産もち米の消費拡大に取り組んでいきます。



広島わけぎ産地の理解深めて

関西の消費者招き日帰りバスツアー

広島県本部



参加者は生産者から収穫の注意点を教わりわけぎを収穫

広島わけぎ部会とJA三原わけぎ部会は3月4日、わけぎ産地の広島県三原市に関西の消費者を招いて日帰りバスツアーを行いました。157名の応募の中から抽選で選ばれた18組36人が、わけぎ圃場の見学やわけぎ料理の昼食などを楽しみ、生産者との交流を深めました。

圃場見学でJA三原わけぎ

部会の山下部会長が「三原市では島しょ部を中心に温暖な気候のもとでわけぎを栽培しており、排水性の良い砂地や、瀬戸内海からの潮風や反射光で甘くておいしいわけぎが育ちます」と説明。参加者の中から選ばれた7人が、生産者の指導を受けわけぎの収穫を体験しました。海の手すぐそばの景色もよい圃場で、参加者は写真を撮るなどして楽しんでいました。

でいました。

昼食は道の駅「神明の里」で、同道の駅で行った「わけぎレシピコンテスト」の入選作品9種類の料理が提供され、参加者は工夫を凝らした料理に驚きながら味わっていました。生産者も加わり、わけぎ栽培や地元のことなどを話して交流しました。三原名物「やっさだるま」の絵付け体験や三原市内の散策なども行いました。

大阪府豊中市の齊藤美幸さんは息子の弘晟さんと参加。収穫を体験した弘晟くんは「根が想像以上にたくさんあって引き抜くのが大変でした」と驚いていました。美幸さんは「わけぎは薬味として使っていました。料理の種類がたくさんあって驚きました。家でも試したいです」と笑顔で語りました。

情勢認識

1. 本会の実践状況

○農業所得の増大・農業生産の拡大・地域の活性化をすすめるため、3つの重点事業施策を柱とする3か年計画を実践中

① 持続可能な農業生産・
農業経営づくりへの貢献

② 海外事業の積極展開

③ 元気な地域社会づくり
への支援

○29年度には「農林水産業・地域の活力創造プランに係る本会の対応」として、生産資材事業・農産物販売事業および輸出拡大に向けた具体策(以下、「年次計画」という)を策定し、JA・全農グループを挙げて実践中

2. 農政関連

○30年産以降の米の直接支払交付金や行政による生産数量目標配分の廃止
○卸売市場法の見直し ○TPPや、HEU・EPAの発効に向けた動向

平成30年度事業計画の基本的な考え方

1. 今次3か年計画および自己改革の着実な実践

○今次3か年計画の最終年度として、3つの重点事業施策の総仕上げに取り組みます。
○29年度に策定した「『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」で示した具体策、および「年次計画」について、これまでの取り組みをさらに深化・拡充に取り組みます。
○効率的な事業運営に向けて新たな道筋へのルールを敷き、組合員のために自己改革を実践します。

○**生産面**:生産コストの引き下げ(肥料に加え農業機械・段ボール資材での共同購入の拡大、ジェネリック農薬の開発、海外飼料原料の調達力強化)、ICTなど新技術の活用、農業現場での農作業受委託など労働力支援

○**販売面**:実需者ニーズをふまえた地域生産振興の拡充(業務用米や加工・業務用野菜の産地づくり、産地間のリレー出荷体制の構築)、直接販売の拡大(営業体制の拡充、品目を横断した営業、実需者・米卸業者への出資・業務提携)、輸出事業の強化(新たな海外営業拠点を核とした、相手国のニーズに応じた販売戦略の実践)

○**地域社会づくりへの支援**:JA生活店舗の業態転換、総合宅配の拡大、ライフラインSS運営手法提案

2. 災害からの復旧・復興支援

○地震や豪雨など農業生産に甚大な被害を与えた災害からの復旧・復興に向けて、行政や他団体と連携し、全農グループが一丸となり被災地のニーズに即した取り組みを実践します。

3. 全農グループ全体としての取り組み

○全農グループ全体の経営資源を有効活用するとともに、戦略共有を強化し、実施具体策を実践します。
○生産・流通・消費構造などの変化をふまえた効率的な事業運営・経営管理の検討をすすめます。

平成30年度経営計画

取扱計画

飼料事業における子会社への事業移管や、米の生産数量減少により取り扱いが減少するものの、青果および石油の取扱増加を見込み、取扱高は4兆5,900億円とします

(単位:億円、%)

| 事業 | 30年度計画 | 29年度計画 | 前年比 |
|-----------|--------|--------|-----|
| 米穀農産事業 | 7,505 | 7,616 | 99 |
| 園芸事業 | 11,879 | 11,813 | 101 |
| 営農・生産資材事業 | 8,042 | 8,050 | 100 |
| 畜産事業 | 10,229 | 10,567 | 97 |
| 生活関連事業 | 8,257 | 7,884 | 105 |
| 合計 | 45,912 | 45,929 | 100 |

(注)消費税については、税抜表示です。
(注)端数処理の関係上、合計等が一致しないことがあります。

平成30年度事業計画のあらまし

事業別実施具体策

※金額は30年度取扱計画、カッコ内は前年計画比

米穀農産事業

7,505億円(99%)

- 1 実需者との直接商談・取引の拡大、および実需者や米卸業者との資本・業務提携の推進
- 2 事前契約の拡大や実需者ニーズにもとづく多収品種等の作付提案など安定取引の確保と、これらを通じた買取販売の拡大
- 3 国産麦・大豆の需要確保に向けた、新品種・生産技術の普及推進などによる安定供給体制の構築
- 4 米の消費拡大に向けた情報発信や、国産大豆、甘しよでん粉の需要拡大に向けた新規市場開発

園芸事業

11,879億円(101%)

- 1 重点取引先の明確化や業務提携の推進、および広域集出荷・加工施設など直販関連インフラの拡充
- 2 実需者ニーズにもとづく加工・業務用野菜の生産提案や輸入量の多い生鮮野菜の生産振興
- 3 実需者を明確にした予約相対取引による契約的取引の拡大
- 4 産地・消費地ストックポイントの設置やパレット輸送の拡大による低コスト流通体制の構築
- 5 農作業受委託などを通じた労働力支援の取組強化

耕種総合対策

- 1 農家手取り最大化に向けたモデル55JAにおけるトータル生産コスト削減の取り組みや、多収品種などの導入による高生産性水田輪作体系の実証
- 2 TAC活動のレベルアップによる担い手への対応強化

営業開発・輸出対策

- 1 新規取引先の開発や既存取引先への取扱拡大、およびニーズにもとづく商品開発・産地開発の強化
- 2 輸出相手国のニーズに応じた産地づくりや商品選定

生産資材事業

8,042億円(100%)

- 1 肥料をはじめとする生産資材の銘柄・規格集約や低コスト農機の開発等、新たな共同購入の実践
- 2 農薬担い手直送規格やオーダーメイドBB肥料など生産者のニーズに対応した省力・低コスト資材の普及
- 3 JAのコスト削減に向けた広域物流の拡充や、共同利用施設向けの総合コンサルの拡大
- 4 肥料原料の安定調達に向けた海外山元との関係強化や、農産物輸出拡大に資する資材の開発

畜産事業

10,229億円(97%)

- 1 包装肉事業拠点の整備やeコマース市場への対応強化など、消費者に直接訴求する販売事業の強化
- 2 キャトルステーションの整備による肥育素牛、乳用育成牛の増産支援など、生産基盤対策の実践
- 3 海外での集荷基盤強化による飼料原料穀物の安定確保と商系メーカーとの受託製造などによる製造コストの低減
- 4 需給バランスの調整による生乳の飲用向け数量の最大化や業務用牛乳の販売拡大

生活関連事業

8,257億円(105%)

- 1 「新たなJA生活事業の実践活動」を通じた総合宅配事業やJA生活店舗の業態転換などライフライン対応の拡充
- 2 農産物直売所活性化支援やエコーブ商品、全農ブランド商品の開発強化を通じた国産農畜産物の消費拡大
- 3 基幹フルSSのセルフ化促進などマスタープランの実践や、施設園芸用光合成促進機の取扱拡大
- 4 電力診断などの省エネ・省コスト化提案や石油・ガス・電力を組み合わせた総合エネルギー提案の実施



産地と実需の懸け橋に 事前予約商談で成約率アップ



主催者や来賓の鏡開きで商談会がスタートしました

第12回JAグループ 国産農畜産物 商談会



JAグループ国産農畜産物商談会が3月14、15の両日、東京・丸の内の東京国際フォーラムで開催されました。全農はJAグループの販路拡大と農家手取りの向上、担い手からの販売力強化の要望に応えるため、JAバンクと共に主催しています。12回となる商談会には、2日間で昨年を上回る5244人が来場し、食品スーパー、生協、外食・中食、食品卸、食品メーカーなどから多数ご来場いただきました。【営業開発部・耕種総合対策部】

開会で主催者を代表して菅野幸雄副会長が「国産農畜産物の販売力強化について、JAグループの総合力を発揮するべく取り組んでおり、本商談会を实りあるものにするためお客さまの視点に立ち、価値ある商品を送り出していくことが重要。全国各地から地域色あふれた自慢の商品を一品でも多く商談させていただき、国産農畜産物の消費拡大につなげて参りたいと考えております」とあいさつ。続いて農林水産副大臣の磯崎陽輔氏（代読：食料産業局産業連携課の高橋仁志課長）、日本生活協同組合連合会会長の本田英一氏をはじめ来賓の方々や主催者代表らによる鏡開きで華々しく開会しました。

JAや農事法人、協同組合連携と



特別セミナーで国産農畜産物の今後の流通をテーマに講演する戸井和久チーフオフィサー



主催者を代表して菅野幸雄経営管理委員会副会長があいさつしました



営業開発部のブースも盛況でした



吉川貴盛衆議院議員(右から2人目)を案内し会場内を視察する長澤豊経営管理委員会会長⑤



地元テレビ局の取材もありました



キャンペンガールも試食を勧め売り込みました

して出展している漁業協同組合を含め全国から147団体の出展があり、地域別に配置された各ブースでは、商談、成約件数向上に向け、盛んに名刺交換や商品説明、試食提供が行われました。成約率向上に向け、昨年に続き事前予約商談を商談会ホームページ上での事前登録制とし、今年は出展品目など出展者情報の詳細を掲載し、成約率の高まる予約商談としました。商談件数も241件(前年比102%)となり、国産への期待が増えていることが感じられました。

地域の担い手に向くJA担当者「TAC」メンバーも出展。日頃、訪問活動している担い手農家と共にブースに工夫を凝らして来場者にPR。初めて参加した出展者からは、販路開拓につながった、普段は生産面の業務が多いが販売担当と一緒に取り組むことで視野が広がったという声も聞かれました。

同時開催の特別セミナーでは、いま食品産業界の最前線で話題となっているテーマ五つについて各専門家が2日間にわたり講演を行い、各テーマとも立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

今後ともこの商談会が産地の皆さまと実需者との懸け橋となり、今後のビジネスチャンスの拡大につながることを期待します。

「Web版JA全農ウィークリー」 4月2日 スタート



「Web版JA全農ウィークリー」
トップページ

『JA全農ウィークリー』は4月2日から、新たに「Web版JA全農ウィークリー」として公開がスタートしました。【広報部】

『JA全農ウィークリー』はこれまで、全国のJAを中心に約4万3000部を発行しています。配布先によっては、職場で閲覧されていない、なかなか目にする機会がないなど声が寄せられていました。

今回Web版JA全農ウィークリーの公開をスタートすることで、本誌の読者だけでなく一般のネット利用者(JAグループ職員を含む)が気軽にサイトの閲覧が可能となります。

スマートフォンにも対応したレイアウトとなっていますので、より気軽にサイトを利用することが出来ます。

また各記事に「Twitter」、「Facebook」など主要なソーシャルメディアとの連携ボタンを設置しているため、気に入った記事があれば、ぜひ共有、引用してください。これまでと同様に本誌は発行していきます。

Web版と同時にJA全農ウィークリーの公式Twitterアカウントもスタートします。ぜひフォローしてください。

スタートしたWeb版JA全農ウィークリーもよろしくお願いします。

Web版JA全農ウィークリーはこちらから
<https://www.zenoh-weekly.jp/>
4月2日 10:00~



JAタウン | 検索
クリック

三重の味自慢 (JA全農三重)



三重県産いちご 風農園 食べくらベセット
(約220g²3パック、化粧箱入)……3800円

なばり かぜのうえん
三重県名張市「風農園」からお届けする旬のイチゴをご紹介します!
あふれる果汁と深みのあるおいしさの「紅ほっぺ」、大粒で果肉がしっかりとして食感の良い「やよいひめ」、一般的な他品種に比べビタミンCをより多く含む「おいCベリー」、酸味が少なくとてもジューシーな三重県オリジナル品種「かおり野」、上品な香りと甘み絶妙な酸味をもつ「おおきみ」。五つの品種のうち「紅ほっぺ」を含む3品種を詰め合わせたセットでお届けします(品種の指定は承れません)。
風農園自慢のイチゴをぜひ、お召上がりください!

なお、ご紹介した商品は、4/13(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。
【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金の他、クール代、お届け先により送料がかかります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。

◇訂正◇ 3月19日付別冊・平成30年度版 JA全農講習会日程で誤りがありました。誤った日程等の修正部分を再掲載(赤字)して訂正し、お詫びします。

【生活リテール部(一社)農協流通研究所委託実施分】 【店舗】

| 講習会名 | 受講対象者 | 回数 | 日数 | 最低人員 | 募集人員 | 受講料(円/税込) | 実施場所(開催時期) |
|----------------|--------------------|----|----|------|------|-----------|-------------------|
| 店長塾(店長専門講習会) | 店長(エリアマネージャー、本部課長) | 1 | 2 | 12 | 20 | 43,200 | 農流研(H30年9月6~7日) |
| | | 1 | 2 | 12 | 20 | 43,200 | 福岡(H30年9月13~14日) |
| バイヤー養成講習会 | 新任バイヤー、バイヤー候補者 | 1 | 2 | 12 | 20 | 43,200 | 農流研(H30年7月26~27日) |
| チェッカースキルアップ講習会 | チェッカーチーフ、サブチーフ | 1 | 2 | 12 | 20 | 43,200 | 農流研(H30年7月5~6日) |